学校だより
令和5年度5月号
なつのくも
第165号（R5．4．28）
練馬区立光が丘夏の雲小学校
本校ホームページ新QRコードです。スマホなどからも閲覧できます。ご活用ください。

自立への基礎を培う

校長　宮林　伸之

新年度が始まり、早１か月が経とうとしています。最初は緊張気味だった１年生も、徐々に小学校生活に慣れてきました。学校には決まった一日の流れがあります。授業時間、休み時間、給食、掃除、学校行事など、１年生にとっては初めてのことばかりです。子供たちは、学習はもとよりその時間の過ごし方、やり方を、主に担任の指導を通して学び、理解し、一人でできるようになっていきます。また、友達、上級生が行う姿を見て、模倣することによってやり方を学ぶ機会も多くあります。

小学校生活は、自立の基礎を培う時期です。それは、大きく分けて、生活者としての自立と、学習者としての自立を目指します。

生活者としての自立とは、端的に言うと自分のことは自分で行うこと。集団の一員としての自覚をもち、協力して生活する態度を育てることです。そして、生活者としての自立の基礎を学ばせるために、まず、今までのように各家庭で基本的な生活習慣の定着を図っていただくとともに、学校では「学校のきまり」の定着を図ることを目指しています。

学習者としての自立は、学習者として授業に集中する態度と力を育てることです。これらは、１年生のうちに身に付けられるものではなく、小学校６年間を通して育てていくことだと考えています。学習者としての自立の基礎を学ばせるためには、学習規律を守ること、学習課題を自分のものとして捉えること、これまで得たことをもとにして解決を図ろうとする持続力と集中力を身に付けさせることを目指しています。そのために、教員は落ち着いた学習環境を整え、子供が既に何を学び何ができるかを見取り、それを土台として指導を進めることを大切にしていきます。

話は変わりますが教育心理学に「ピグマリオン効果」という言葉があります。他者からの期待を受けることでその期待に沿った成果を出すことができるという心理効果のことをいいます。子供たちにかかわる大人（保護者や教師）が、子供一人一人に「自信を与えること」「よい点を見付けて褒めて伸ばすこと」が大切になると思います。いつも「おまえはだめだ」とか、「どうしてこんなことが分らないのか」とか言っていれば、子供は「自分はだめな人間だ」と思ってしまいます。子供自身が本来もっている「伸びよう」「成長しよう」「殻を破ろう」というプラスの意識を損ねてしまうのです。

令和５年度学校経営計画には、日常の教育活動で大切にすることとして以下のように記しています。

日常の学習場面、委員会･係･当番活動、行事への取組に際し、
○目標をもたせ目標達成に向けて努力させる。
○最善を尽くそうという姿勢を常にもたせ、主体的に取り組ませる。
○主体的に事象に関わらせ、やり遂げる経験を積ませることを大切にする。
　マネジメントの視点を導入し、児童が主体的に課題に取り組み、解決までの計画を立て、時に仲間と力を合わせてやり遂げる達成感･成就感を味わわせることを大切にしていく。

今年度も経営計画に記しているように、様々な場面で子供たち一人一人が達成感や成就感を味わうことができるように、学校と保護者・地域の皆様と情報共有を図りながら教育活動を展開していきます。

お知らせ

光が丘夏の雲小では給食費の引き落としを毎月６日におこなっています。口座からの引き落としとなりますので口座の開設や残高の確認をお願いいたします。

今年度最初の引き落としは、練馬区からの学校給食における食材購入費に係る補助事業、多子世帯への学校給食費補助等の実施に伴い６月６日におこなうことといたしました。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。